

2014年に完成した小学校用のコンパクト浄水機は、一時間に1トンの供給水量である。周辺2000世帯に健康で美味しい飲料水を供給できる。2015年に、施設のオープニングを行った。



ここの井戸水は、基準値の20倍の自然毒があった。浄水機は、子どもたちだけでなく、2000世帯の人々を救う。

浄水器と水タンクを収納する堅牢なハウス。天災や人災で浄水機が壊れないことが大切だ。

インドネシアでも画期的な施設の完成に苦勞した仲間たち。東ジャワ政府の職員たちの支えは陰に陽に大きかった。



2015年4月2日、東ジャワ州SIDARJO県、スラバヤ空港に近いBUNCITAN小学校に設置された第一号機のオープニング。中央政府、東ジャワ州政府、SIDARJO県長ほかの来賓。

中央、第一号機施設に対する寄付者の宮原氏と息子さんに、インドネシア政府・教育省のSIDARJO地方局長は、施設のフィルター交換等メンテナンスの予算化を約束した。



オープニングでは、地域の舞踊グループが彩りを添え、3000名近い参加者が施設の完成を祝った。周辺コミュニティは、この施設を自分たちのものとして守ることを決めており、こうした学校との関係をインドネシアに広げたい。

地域の、小さな子どもたち。これからは、水が原因で病気になったり死ぬことは、なくなるだろう。



C.P.I.は、完成した施設に自らの名を刻むことはない。寄付者の名は、ボードに刻まれる。息子さん、お孫さんが訪問したとき、寄付者のことをいつまでも誇りに思ってもらいたいと思う。



2017年、SIDARJOのBUNCITAN小学校の校長先生と子どもたち。浄水施設を仲立ちに、日本人とインドネシア人の心と心の絆は続いている。